

社会貢献活動の基本的な考え方

当社およびグループ各社は、金融グループとしての高い公共性を認識し、本業での活動を通じて社会の発展へ貢献することが重要と考えます。一方で、日常業務を通じた社会への貢献に加え、豊かな社会を実現するための『良き企業市民』としての活動も欠かせません。当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての社会的責任を果たすべくさまざまな社会貢献活動も行います。

社会貢献活動方針

当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての役割を認識し、豊かで持続可能な社会の実現を目指し社会貢献活動を行います。この社会貢献活動を積極的に行うため、企業で活動を企画・実施するとともに、社員のボランティア活動を支援します。

社会貢献活動の柱

当社およびグループ各社は、以下の4つの分野を社会貢献活動の柱としています。

福祉活動、地域・国際社会、環境活動、文化・芸術・教育

福祉活動

豊かな社会の実現に貢献するための福祉活動を行っています。

●書き損じはがき、テレホンカード、切手等の募集・寄贈

当社では、グループ会社の社員から「書き損じはがき」を募集し、未使用切手に交換のうえ、通信費としてボランティア団体に寄贈しています。

また、三井住友銀行では社内で「未使用テレホンカード」を募集、三井住友カードでは「使用済み切手」「使用済みプリペイドカード」を募集、SMBCフレンド証券では「使用済み切手」を募集し、ボランティア団体に寄贈しています。

●手話講習会の開催



三井住友銀行では、耳の不自由な方への理解を深めることや業務を通じた社会貢献として店頭でのお客さまサービスの向上を目的とし、平成9年度より毎年、手話講習会を開催しています。平成18年度は約100名の有志社員が10回の講座を受講しました。また、平成17年より、耳の不自由な講師による日常生活での感じ方等に関する講演会を、手話通訳士による通訳のもとで開催しており、平成19年4月には有志社員約930名が参加しました。受講後

は、店頭でのお客さまとの会話や、手話を使ったボランティア活動への参加など、各自の受講成果をさまざまに活かしています。

●ボランティア体験講座の開催

三井住友銀行では、社員が業務後や休日を利用して気軽にボランティアを体験できるイベントを開催しています。平成18年度の取り組みは、次のとおりです。このほかにも、ボランティア活動に関する各種情報を社員に案内し、積極的な参加を呼びかけています。



*盲導犬、介助犬、聴導犬のデモンストレーションなどを通して、補助犬への理解や障害のある方のサポートの方法を学ぶ親子参加のイベントを開催しました。



*災害や戦争、経済的困難等に苦しむ開発途上国の子供たちの現状について学ぶとともに、当行店頭等で受付けている外国コイン募金の通貨別仕分け作業を行う、親子参加の国際協カイベントを開催しました。



*耳の不自由な方による講義の後、日本語字幕付きの邦画を音声なしで鑑賞し、聴覚障害への理解を深めるイベントを、複数企業と1大学との共同により開催しました。



*地雷除去活動への理解と支援を呼びかけるチャリティーコンサートを、複数企業と1大学との共同で開催しました。



*経済的な理由などで就学できないラオスの小学生への奨学金と保健衛生プロジェクトに寄付しました。



*経済的な理由などで就学できない中国農村部の女子児童に奨学金を寄付しました。

●高齢者支援団体への寄付

SMBC フレンド証券は、平成 19 年 4 月、高齢化社会に対応する企業に投資を行うテーマ型投資信託の販売で得た収益の一部を、高齢者の生きがいと健康作りを推進する団体に寄付しました。



*アフガニスタン北部で紛争や地雷により被害を受け障害を負った方たちへの治療費用を寄付しました。

地域・国際社会

地域・国際社会の発展に貢献する活動を行っています。

●三井住友銀行ボランティア基金

三井住友銀行では、有志社員の給与から毎月一律 100 円を天引きして、ボランティア団体等への寄付を行っており、約 1 万 1 千人が加入しています(平成 19 年 7 月現在)。平成 18 年度の取り組みは以下のとおりです。



*ネパールの経済的に困難な地区にある病院において、検査機器の入れ替え、産科救急体制の整備にかかる費用を寄付しました。



*カンボジアの貧困地区において、小学校のトイレ増設や補修および図書室兼自習室の設置にかかる費用を寄付しました。



*ミャンマーで、保健・衛生・識字教育、裁縫技術訓練などを通じた母と子の生活環境改善支援プロジェクトにかかる費用を寄付しました。



*子供向けの本が非常に不足しているカンボジアで、現地の民話絵本「クメールの子ども遊び」の出版と先生の読み聞かせ研修会にかかる費用を寄付しました。



*アフリカのエリトリアで、トラクター組合の運営を通じた帰還難民女性世帯の自立支援事業にかかる費用を寄付しました。



*子供向けの本が非常に不足しているラオスで、学校図書室の開設と子供の情操教育を行う子供文化センターの運営費用を寄付しました。



*バングラデシュにおいて、最貧困層等の女性を対象とした収入向上等支援活動の費用を寄付しました。



* アフリカのベナン共和国において、住民の経済的自立支援を目的とし、現地の主食であるキャッサバ芋の加工事業にかかる費用を寄付しました。



* インドネシアにおいて、口唇口蓋裂病などの患者の手術費用およびストリートチルドレンへの奨学金を寄付しました。

* 緊急災害支援として、以下の寄付を行いました。

- ・ジャワ島地震の被災者義援金
- ・平成 18 年 7 月豪雨の被災者義援金
- ・平成 19 年 3 月に発生した能登半島地震被害の被災者義援金
- ・平成 19 年 4 月に発生したソロモン諸島地震津波の被災者義援金

●災害義援金の受付口座の開設

三井住友銀行では、国内外での大規模災害発生時に、振込手数料無料の義援金口座を開設し、お客さまからの募金受付を行っています。また行内、日本総合研究所でも役員に対し募金の呼びかけを行っています。

●ボランティアスタッフ YUI (ゆい) の活動

三井住友銀行では、社員自らが企画立案を行う社内ボランティア組織「YUI」の支援を行っています。名称は江戸時代に共同で農作業を行う「結」に由来し、さまざまな人との「つながり」を大切にしたいという気持ちが込められています。平成 18 年度は以下のほか多くの活動を行いました。



* 社員から集めた物品をバザー会場で販売し、売上金をボランティア団体に寄付する活動を平成 13 年度より毎年行っています。

* 耳の不自由な子供たちが通う小学校で、平成 14 年度より半年ごとに、パソコン教室を開催し、筆談や手話で説明しながら、子供たちにパソコンの操作方法を教えています。

●ユニセフ(国際連合児童基金)等への支援

* 三井住友銀行は、ユニセフ外国コイン募金実行委員会のメンバー企業として、同募金活動の運営に協力しています。当行の国内本支店・出張所の店頭で「外国コイン募金箱」を設置して協力を呼びかけ、集まった募金はグループ会社「SMBC グリーンサービス」の協力を得て各国通貨別に仕分けし、日本ユニセフ協会に送っています。平成 18 年度は、当行店頭で受け付けた募金および全国の空港等から集められた外国コイン約 40 万枚(約 1.8 トン)、外国紙幣約 1 万 4 千枚を通貨別に仕分けし、外貨に混入されていた円貨約 400 万円分とあわせて、日本ユニセフ協会に送りました。なお、実行委員会全体では、活動を開始した平成 4 年からの募金総額は 7 億 2 万円にものぼっています。

また、普通預金の税引後利息をユニセフに寄付していただく「ユニセフ愛の口座」を取り扱い、三井住友銀行でもお客さまと同額の寄付をしています。



店頭で外貨募金を受け取ります。



各国通貨別に仕分けして、ユニセフに送ります。

* 三井住友カードでは、VJA の会員向けポイントサービス「ワールドプレゼント」を通じて、カード会員の方からの寄付金を毎年日本ユニセフ協会へ寄付しており、同制度を開始した平成 4 年からの募金総額は 2 億円を突破しています。平成 19 年 4 月からは、日本ユネスコ協会連盟、WWF ジャパン(世界自然保護基金)への寄付を追加しました。また、「ユニセフ VISA カード」や「赤い羽根 VISA カード」など社会貢献型カードを発行し、各団体の活動資金として、カード利用額の一部を寄付・還元することで、よりよい社会づくりに貢献しています。

● SMBC GLOBAL FOUNDATION

アジア各国の大学生への奨学金支給を主な活動の一つとしている同財団は、94 年以来、5 カ国延べ 5 千人以上の学生を支援し、平成 18 年は更にマレーシアとベトナムにもその活動を広げました。また米国やカナダにおいても教育・文化といった分野を中心とした地域貢献活動を盛んに行い、三井住友銀行の国際社会への社会貢献活動の一翼を担っています。

●三井住友銀行国際協力財団

開発途上地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、財団設立当初から16年間にわたり、のべ39人のアジアからの留学生に奨学金を支給しています。また、開発途上国に関する研究機関・研究者への助成を行っています。

環境活動

地球環境の保全に貢献する活動を行っています。

●地域のクリーンアップ活動



*三井住友銀行では、平成16年度より毎年4月に三井住友銀行の有志社員が東京都の荒川河川敷において、清掃活動と河川の水質調査を実施しています。平成19年4月には、約460名が参加しました。



*三井住友銀リースでは、大阪本社の社員が自主的かつ継続的に御堂筋の早朝清掃を続けるなど、地域の美化に貢献しています。平成19年5月に行われた「御堂筋完成70周年記念大清掃」にもボランティアとして参加し、ゴミ・吸殻の回収・廃棄を行いました。

*日本総合研究所および日本総研ソリューションズは、「国際ビーチクリーンアップキャンペーン」に賛同し、平成18年より春と秋に鶴沼海岸、須磨海岸で開催される美化活動に、社員や家族が参加しています。また平成19年5月には「御堂筋完成70周年大清掃」にも参加したほか、東京・大阪の本社ビルを中心に各自自治体の呼びかけに応え、事業所周辺の清掃活動を行っています。

●エコファンドの調査受託を通じた

民間自然保護団体への寄付支援

日本総合研究所は、環境保全に積極的な企業を選定して投資する株式投資信託・エコファンドの企業選定に関わる環境活動調査を受託しており、この調査委託に関して受領した収益の一部を民間自然保護団体に寄付しています。

文化・芸術・教育

文化・芸術・教育の発展に貢献する活動を行っています。

●チャリティーコンサート「名曲のおもちゃ箱」の開催



三井住友銀行では、平成18年度より戦争や災害などで傷ついた世界の子供たちを支援するためのチャリティーコンサートを開催しています。行内の音楽クラブである合唱団・室内合奏団・吹奏楽団が、クラシックからアニメソングまで、大人・子供とも楽しめる多彩な音楽を演奏し、会場では募金受付のほかチャリティーグッズの販売や世界の子供たちから寄せられた絵画の展示などを行っています。平成19年6月は、東京都千代田区の日本大学カザルスホールにて第2回目の演奏会を開催し、多くのお客さまにご来場いただきました。

●金融経済教育への取り組み



三井住友銀行では、書籍「銀行のひみつ」の発刊、子供向けお仕事体験タウン「キッズニア東京」への協賛、小学生向けの銀行見学ツアー「夏休み!こども銀行たんけん隊」の開催、東京都品川区の中学生・高校生向けの経済教育プログラム「ファイナンス・パーク」への協賛、大学での金融・経済に関する講義など、金融経済教育に幅広く取り組んでいます。

●インターンシップの実施

日本総合研究所では、近年、若年層が在学中からの職場体験を通じた職業意識の啓発が重要視されているのを受け、平成11年からインターンシップを実施しています。平成18年からは日本総研ソリューションズと共同で運営しており、これまでに約400人のインターンを受け入れました。システムからコンサルティング、シンクタンクと多岐にわたる部門でインターンを受け入れ、幅広いテーマや内容で就業体験の機会を提供しています。

●山種美術館の美術展への協賛

SMBCフレンド証券では、前身である山種証券の創始者・故山崎種二が長年にわたり収集した各種の近代・現代日本画を所蔵している山種美術館による美術展へ積極的に協賛し、文化芸術活動を支援しています。